



愛知県立旭丘高等学校

鈴木 尚哉 校長 インタビュー

愛知県立旭丘高等学校（名古屋市東区出来町）は、2027年に創立150周年を迎える。歴史と伝統に根ざした教育を通じて、国内外のさまざまな分野で活躍する人材を送り出してきた。2026年4月に校長に就任した鈴木尚哉氏は「旧制中学校時代の校訓である『正義』『運動』『徹底』の精神を受け継ぎ、全人的完成教育を目指しています」と話す。同校の学びと、これからの教育への思いを聞いた。



時代の変化を柔軟に考え、新しいことに挑戦

―校長就任の抱負をお聞かせください。

鈴木校長 歴史と伝統があり、愛知県を代表する高校の校長として、その責任と使命の大きさを改めて実感しております。

―2027年に創立150周年を迎えます。学校の歩みを教えてください。

鈴木校長 1870（明治3）年に開設された名古屋藩の洋学校を源流とし、1877（明治10）年に設立された愛知県中学校、後の愛知県第一中学校（愛知一中）へとつながります。1938（昭和13）年に現在の校地へ移転し、1948（昭和23）年に旧愛知一中と旧名古屋市立第三高等女学校が統合され、愛知県立旭丘高等学校が発足しました。

―記念行事はどのようなものを予定していますか。

鈴木校長 4万人を超える卒業生を擁する同窓会「鯨光会（ここうかい）」が中心となって記念事業を計画してくださっており、学校も連携して準備を進めています。記念式典や講演会、音楽・美術の分野で活躍する卒業生を中心とした発表の場、学校を会場にしたホームカミングデーなど、数日間にわたる行事を予定しています。

―教育方針についてお聞かせください。

鈴木校長 愛知一中の校訓である「正義を重んぜよ」「運動を愛せよ」「徹底を期せよ」の精神を受け継ぎ、自主・自律の精神に満ちた、心豊かな生徒を育てる全人的完成教育を目指しています。情報科の専任教員を2人配置し、AI（人工知能）時代に対応する学びにも力を入れています。伝統を礎としながら、未来を切り拓く教育を着実に進めていきます。

―生徒数と、美術科の特色を教えてください。

鈴木校長 各学年は普通科9クラス、美術科1クラスの計10クラスで約400人、全校生徒は1,198人（2026年4月1日現在）、男女比はおおむね6対4です。美術科は1950年に設置され、県内全域から生徒を募集しています。1、2年生でデッサンや油彩画、日本画、彫刻の基礎を学び、3年生では油彩画、日本画、彫刻、ビジュアルデザインの4分野から1つを専攻します。卒業後は芸術系大学を中心に進学し、才能を生かして社会で活躍しています。

―スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取り組みについて教えてください。

鈴木校長 2019（令和元）年度の指定以来、